

# UIFA JAPON NEWSLETTER

## 主な内容

- UIFA JAPON 2000 年度 通常総会・記念講演会へのお誘い
- 連載企画 広がるレースワーク 6  
もう一度考える、「レースワーク」
- セナさんの本を読む会
- この指とまれ 「埼玉県立大学・同短期大学部見学」
- ユバ・カルデザインを考える「痴呆高齢者のためのケア環境」
- 役員会報告

## UIFA JAPON 2000 年度 通常総会・記念講演会へのお誘い

今年もまた、UIFA JAPON の総会の時期がめぐってきました。例年のように6月の第2土曜日、今年は6月10日です。会場は昨年と同じ、四ツ谷の弘済会館です。

### ■通常総会・記念講演会案内

日時：2000年6月10日(土) 開場 13:00～  
会場：弘済会館 4階会議室「桜」  
プログラム：

- ①2000年度通常総会 13:30～14:10  
総会議案：  
第1号 1999年度の活動と収支報告・監査報告  
第2号 2000年度の活動計画案と予算案  
第3号 役員を選出
- ②記念講演会「北欧の近代建築」  
写真家・建築家 吉村行雄氏  
14:30～16:30
- ③懇親会 16:45～17:45

### ■記念講演会は 写真家・建築家 吉村行雄氏の「北欧の近代建築」

記念講演会は、建築家でもある建築写真家、吉村行雄氏にお願いしています。“北欧の近代建築”というタイトルで、美しいスライドを豊富に使いながらのお話です。

吉村氏は、建築会社の設計部で設計担当の後、広報制作業務に携わり、その間30年にわたって、建築写真を

撮り続けてこられました。多くの都市や名建築の撮影の為のヨーロッパ訪問の中でも、とりわけ北欧は、その建築の魅力にひかれて、たびたび訪問しておられます。

今回は、19世紀末から20世紀初頭にかけての北欧の建築家達の代表的な作品をスライドで見せていただきながら、ヨーロッパ本土とは一味違う、北欧独特の近代建築の流れをたどるお話です。ラグナル・エストベリのストックホルム市庁舎を初めとして、グルナン・アスブルンドやアルネ・ヤコブセンの作品に、現在の北欧モダンデザインへの方向を予感させる流れ見ることが出来るでしょう。四角く切りとられたフレームの中に、北欧近代建築への建築家としての吉村氏のまなざしが見てとれます。どうぞ、御期待下さい。



吉村行雄氏  
1971年 武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業  
竹中工務店入社  
一級建築士  
1968年 新建築住宅設計競技  
2席入賞  
1994年 カノガホシ展で  
写真集が通産省  
生活産業局長賞受賞  
1998年 ニューヨークで  
写真展(個展)開催

- 参加費 記念講演会 UIFA 会員 1000円  
非会員 2000円  
懇親会 会員・非会員ともに 1500円

- 参加申し込み 2000年6月5日(月)までに  
UIFA JAPON 事務局：千代田区麹町2-5-3  
麹町 E・C・Kビル(株)生活構造研究所内  
FAX 03-5275-7866

## ■ 連載企画 広がるレースワーク 6

UIFA 国際女性建築家会議第12回日本大会のその後

### もう一度考える、「レースワーク」

—都市の創造者たる女性の活動

ビデオ City-Maker Women を見て—

UIFA JAPON ニュースレター委員会

#### これからの「レースワーク」を考える

ニュースレター編集部では、UIFA が国際的な「レースワーク」をつなげていくうえで印象的だったアルゼンチンのグラシエラ・シュミットさんとイネス・グエンベレナさんが制作したビデオ「都市の創造者たる女性の活動」をもう一度見る会を行いました。このビデオは、政府の援助に頼らず自力で生活共同体を組織し、子ども達に食事を供給したり、活動施設や共同住宅を建設したり、自立のための職能訓練をしたりするボランティア活動を紹介しているもので、政府の政策に頼るのではなく、自らまちづくりに参加する女性たちをレポートしています。UIFA JAPON に寄贈されたこの一本のビデオから、私達が学ぶべきものを考えようという主旨で、編集委員を中心に6名が集まり意見を述べ合いました。このまちづくりの原点ともいべき女性達の活動から、我々女性建築家に何が出来るか、どんな支援・協力の形があるのか、UIFA 全体で考えるきっかけにしたいと思います。

#### たくましさと豊さと

渡辺 このビデオは、アルゼンチン政府が見せない市民活動を見せていますね。UIFA を通じた活動では政府が見せようとしらない情報を世界に紹介することできるという好例だと思います。UIFA の「レースワーク」の形はいろいろあると思いますが、建築はセルフビルドで行うことができるという強みがありますから、UIFA ができることがたくさんあるように思います。

田中 ビデオの女性たちの「精神的に充実している。人間的な建築を学んだ」との言葉どおり、貧しく仕事もないという状況下でも、自立している人々の顔があると思いました。限られた状況の中で出来る事について考えさせられます。日本でも、自立という意味で同じようなことができるのではないのでしょうか。

渡辺 ファッション街の前に貧しい人々のマーケットがあったり、ストリートチルドレンなど深刻な問題を抱えています。たくましさがああります。また、セルフビルドには創る喜びがありますね。場所にあった地域の人々のための開発が必要なのではないのでしょうか。



シュミットさんとグエンベレナさん

—UIFA 国際女性建築家会議第12回プログラムより抜粋—

このビデオはインフォーマルな都市を建設するために彼女らが採用した方法と苦悩を収めたものである。これを見れば、市民権をえたこの女性たちが都市の主要な創造者であり、声なき人々の代弁者であることが分かる。

#### セルフビルドの効果

飯島 ここには身の丈に合った暮らし方があると感じます。たくましく生きている。次の喜びを見つけるのは、日本の方がむずかしいかもしれません。

渡辺 参加型の街づくりが今盛んに行われ始めていますが、このビデオ『都市の創造者たる女性の活動』には参加の思想の原点があります。貧しい所のことを美談化してはいけませんが、物的充足にたよる私たちから見ると、すばらしい活動と思います。

三上 セルフビルドは、人間本来の力を感じさせると思います。日本にも昔はそんなことがあったのではないのでしょうか。私たちに何が出来るかを考えるのは大変難しいけれど、環境づくり、体系的な援助に知恵を貸すなど、出来ることがあると思います。

#### 支援についての考え方

渡辺 大震災の例に見るように、支援というのは難しいものです。

田中 まとはずれになることがあるから。

中村 地震のような突発的なことでなく、アルゼンチンのような継続的に動いている人々への支援はどうなのでしょう。情報をあげるだけではだめだと思います。

渡辺 例えば高齢者支援の場合、手を出さずに自主的に動こうとしている人を見守ることがありますが、アルゼンチンのように自立しようとしている場には、どんな支援が考えられるでしょう。

中村 セルフビルドの英国の例を見ると、日本の“ゆい”と共通点があるのです。歴史を学び、情報公開することで新しい技術が生まれることもあります。お互いの技術のエクステンジが有りうるのではないのでしょうか。アルゼンチンのような国では、情報が限られている可能性があります。日本には情報があるのだからこれを利用した方が良いでしょう。

#### 対等な関係を築く

渡辺 物的豊さと精神的豊さは必ずしも一致しません。再生を考えている鳥取の過疎の村に行った時、東京の例などは役に立たないと思いました。このまちにある豊か

な文化を地域の人々の力で生かしてこそ再生力になるなど感じたままを言ったら、異なる風も欲しいと思われてか、議論もはずみ、受け入れられた実感がありました。田中 支援というのは、こちらが学ばせてもらう機会でもあるのだから、お互いの交流と言うほうが適切だと思います。

三上 それがコミュニケーションのきっかけになれば良いですね。

飯島 日本はいつも忙しすぎて、どんどんものを作りますが、その後のフィードバック無しにまた作るようになってしまいます。もっとゆとりを持つべきで、少し足踏みをして良いのではないのでしょうか。運用が大事だから時間軸で捉えたいものです。

田中 地域の特性をもっと掴むべきだと思います。全国共通マニュアル化の傾向がありますが、東京から資材や技術を持って行っても成功しないかもしれません。

須永 例えば、日本は熱帯雨林を伐採しています。これでは自国内のことを先に考えるべきだ、と言われてしまうでしょう。自分たちの足元を見つめ直す事から、対等な関係を築くことができるのではないのでしょうか。

田中 結論として言えることは、自分たちをよく知り、足元を固め、何ができるかをよく吟味し、対等の関係を保ちながら、つまり自分たちが自立した上で、相手への支援なり協力なりを考えなくてはならないということですね。

中村 物的に豊かであっても、精神的にはどうかなというのが今の日本ですね。だからこのビデオの女性たちのたくましさに感動する。このビデオはUIFA JAPON事務局にありますので沢山の方に見ていただきたいと思います。

(出席者：三上紀子、中村陽子、須永淑子、渡辺喜代美、飯島静江、田中厚子)

#### 参考【アルゼンチン共和国の概要】

面積：2,766,869 平方 km

人口：約 33,878 万人（ヨーロッパ系 85%、インディオ・白人の混血 15%）

言語：公用語はスペイン語

首都：ブエノスアイレス

教育：93%が基礎教育を受けている。

歴史：インカ文明の国を、16世紀初期にスペインが占領し統治。ナポレオンのスペイン侵略により、1810年に独立政府ができ、1816年に正式に独立。イタリア、スペイン等欧州諸国から大量の移民を受入れ、20世紀初頭まで農牧業が急速に発展した。一次産品の輸出で、年率6%の経済成長率を達成。1930年にクーデターにより軍事政権となる。この後工業主導型への道をたどるが、国家の干渉、規制、国内重視政策、ばらまき補助金が経済にとって重荷となる。1983年完全な民主主義が復活、その後経済政策を転換し立て直しをはかっている。

## ■セナさんの本を読む会

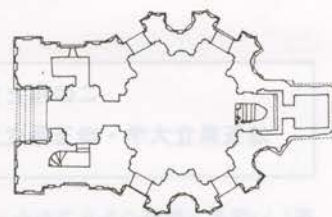
—女性たちがいかに建築の理論と実践に関わってきたか

「セナさんの本を読む会」は東さんの呼びかけで昨年3月に始まりました。「セナさんの本」とは、クロアチアの大学教授 Sena SEKLIC さんから送られてきた「A Search of Women in Architectural Theory and Practice」という本で、歴史をたどりながら女性と建築の関わりについて述べています。原文はクロアチア語ですが、英文の訳も添えられており、ぜひ日本語に訳して欲しいというセナさんのメッセージがあったことから、勉強会形式でスタートすることになりました。

— 会は毎月1回、第2土曜日の午後、主として青山のウイメンズプラザのフリースペースで行われています。当初5人の参加で始まりましたが、2月より仲間が増え6人で進めています。毎回各々が1ページ弱を担当し、日本語に直したものを持ち寄ります。しかし、読みあわせていくうえで、難解な表現や辞書に出ていない特殊な語句、スペルまちがいも少なくないため、全員で知恵を絞りながらの作業となっています。また、記載されている建築物を資料、写真等で確認したり、建築物の背景となる壮大な歴史の理解も必要とされ、関連資料を収集しながら読み進めています。



Sena SEKLIC さん



Tubarak Khatum 王妃の墓

これまでに第1章「アマゾネスの都市建築」、第2章「セミラミデの空中庭園」、第3章「ハトシェブストーエジプト第18王朝クレオパトラとシバの女王」、第4章「ヨーロッパ以外の文化」まで読み終えました。第4章では世界の様々な地域や時代にわたり、神話上、伝説上の人物を含めた有名、無名のたくさんの女性が登場します。「日本」の項では、神功皇后から推古天皇、持統天皇、孝謙天皇や北条政子、東福門院が、また、「中国」の項では、歴史上有名な則天武后や西太后が登場します。「イスラム建築の起源」の項では、インドからスペインに至るまでの実に広範囲の様々な王朝の女性たちが、慈善施設や多くの霊廟、モスクやマドラサ（回教高等学院）の建設

〒102-0083 東京都千代田区麹町2-6-5  
麹町E・C・Kビル 株式会社生活構造研究所内  
TEL 03-5275-7861 FAX 03-5275-7866  
メールアドレス uifa@LIQL.CO.JP



セナさんの本を読む会のメンバー

に関わったことが述べられています。現在は第5章「エーゲ海文明及び古代ギリシャ文明の土壌」に入っています。ここでは、男性優位との社会と見られているギリシャ時代においても、建築に影響を与えた女性たちがいたことや、天文学、哲学等、様々の分野で女性が活躍していたことが実名をあげて説明されています。

スタートして1年、ようやく全体の3分の1程度までたどりつきました。ゆっくりとしたペースですが、セナさんから大いに期待しているとの便りも頂いています。いつの日かこの本に登場した場所を巡りたいという夢のような話も出て、毎回なごやかな集まりとなっています。(吉村康子)

#### この指とまれ

埼玉県立大学・埼玉県立大学短期大学部見学

新しい学生と教師のあり方をキャンパス計画として提案し、話題の埼玉県立大学・同短期大学部(設計:山本理顕設計工場、開校:平成11年4月)の見学を企画しました。建築と一体化し個性を発揮するユニークなアートワーク計画も含め、20世紀を締めくくるキャンパス計画で必見です。ぜひご参加ください。  
日時:2000年7月4日(火)午後2:00~4:00  
集合場所:埼玉県立大学・同短期大学部正門守衛所前  
埼玉県越谷市大字三野宮字御手舂280  
東武伊勢崎線せんげん台よりタクシー5分他  
見学の申し込み方法は別紙案内をご参照ください。  
企画連絡先:広報担当 渡辺喜代美 03-5320-4942  
井出幸子 03-3458-6612

#### ユニバーサルデザインを考える

##### 「痴呆高齢者のためのケア環境」

最近、新聞紙上でも取り上げられているが、相前後してこんな知り合いの嘆きを聞いた。脳血管障害で痴呆の症状がでてしまった親を、リハビリ訓練のために在る老人医療センターに入院させたところ、リハビリ時間以外は、日中は車椅子に、夜間はベッドにベルトで固定されていたとのこと。それを聞き老人専門の病院施設計画のあり方に疑問を持った。高齢者のうち痴呆の人が占める率が7%になるという時代、施設計画を行う上で痴呆を特別なケア環境に「収容する」(ベルト固定も含め)今までのやり方で良いのか。とても重い課題で、ケアする立場からすると、安全が第一で、「見守り」のスタッフに限りがある場合こうならざるを得ないのは判る。

しかし、やはりこれで良いはずがないと考えたい。施設計画の与条件としては、痴呆を高齢者の一つの障害の型として扱い、自分の行動を上手く制御できる患者・上手くできない患者が「共に同一環境で、安心で安全なケア環境を享受すること」が原則なのではなかろうかと思う。

前々回大高さんから紹介されたユニバーサルデザインの7つの原則の中の、一つ **Equitable Use** 公平な実用性…すべてのユーザーが同じ手段・手法で利用できること。公平とは何なのかという議論も含め施設計画への課題は大きい。

(井出幸子)

#### ■役員会報告

##### ●1999年度 第12回:3月29日

出席者:小川、松川、小渡、東、正宗、峯、山田、吉田(あ)、渡辺  
・(財)トステム建材産業振興財団の報告書が完成した。2冊を贈ってもらう。  
・(財)ユニオンの事業内容「国際交流」紹介欄に UIFA JAPON の活動内容が掲載される。

・第20回海外交流の会「ライトの建物見学・講演会」総括

・UIFA JAPON2000年度総会準備について  
予算編成、記念講演会、議案書、事業計画等

##### ●2000年度 第1回:4月24日

出席者:中原、小川、東、飯島、松川、正宗、山田、吉田(あ)

・1999年度決算(委員会費含)について

・UIFA JAPON2000年度総会準備について  
プログラム、概算費用、議案書(1999年度活動、2000年度活動計画、役員選出)、記念講演会、海外交流の会、総会役割分担等

・UIFA JAPON 役員交代に関する方針及び案

(飯島静江)

#### ■ 広報日より

お詫び:前号 NO.40 号に校正ミスがありました。p1「F. L. ライトと明日館」の執筆者正宗量子さんの名前が落丁。p2旧帝国大学ホテルは旧帝国ホテル、写真説明の小川 UIFA 会長は小川 UIFA JAPON 副会長です。3箇所を訂正してお詫びいたします。

「セナさんの本」が翻訳出版される日が楽しみです。フレー、フレー! / 総会の記念講演は吉村さん。すばらしいスライドとお話。わくわくします。地球上の美しいものをみることで感性を育てよう。/ 20世紀最後の総会です。積極的なご参加を。

(編集長:渡辺 編集担当:飯島 田中 中村 井手 大高 須永)